

蒼め雫

-another story-

2人が付き合い始めるまでの清司視点の話



莉緒さんが欲しい

あの日

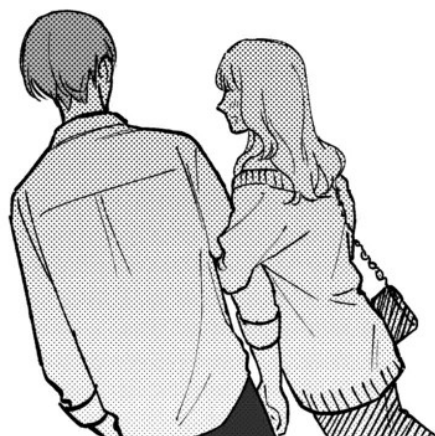
莉緒さん

僕は柄にもなく

僕の恋人になって
くれませんか

自分から告白をした

女性から告白
されたら付き合う
という日々を
過ごしていたので



別れては
付き合ってた
繰り返していた

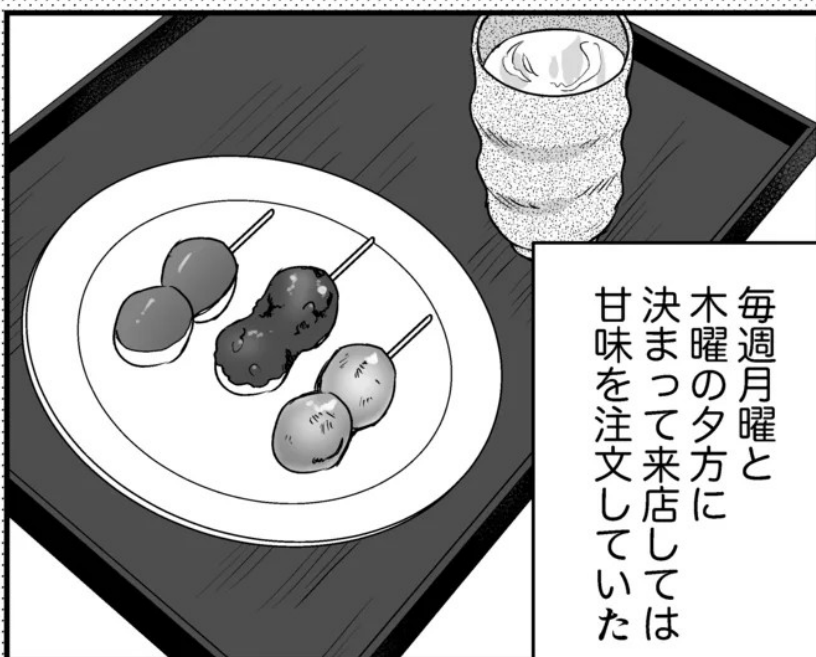
隣に誰が居ようと
あまり
変わらなかったし

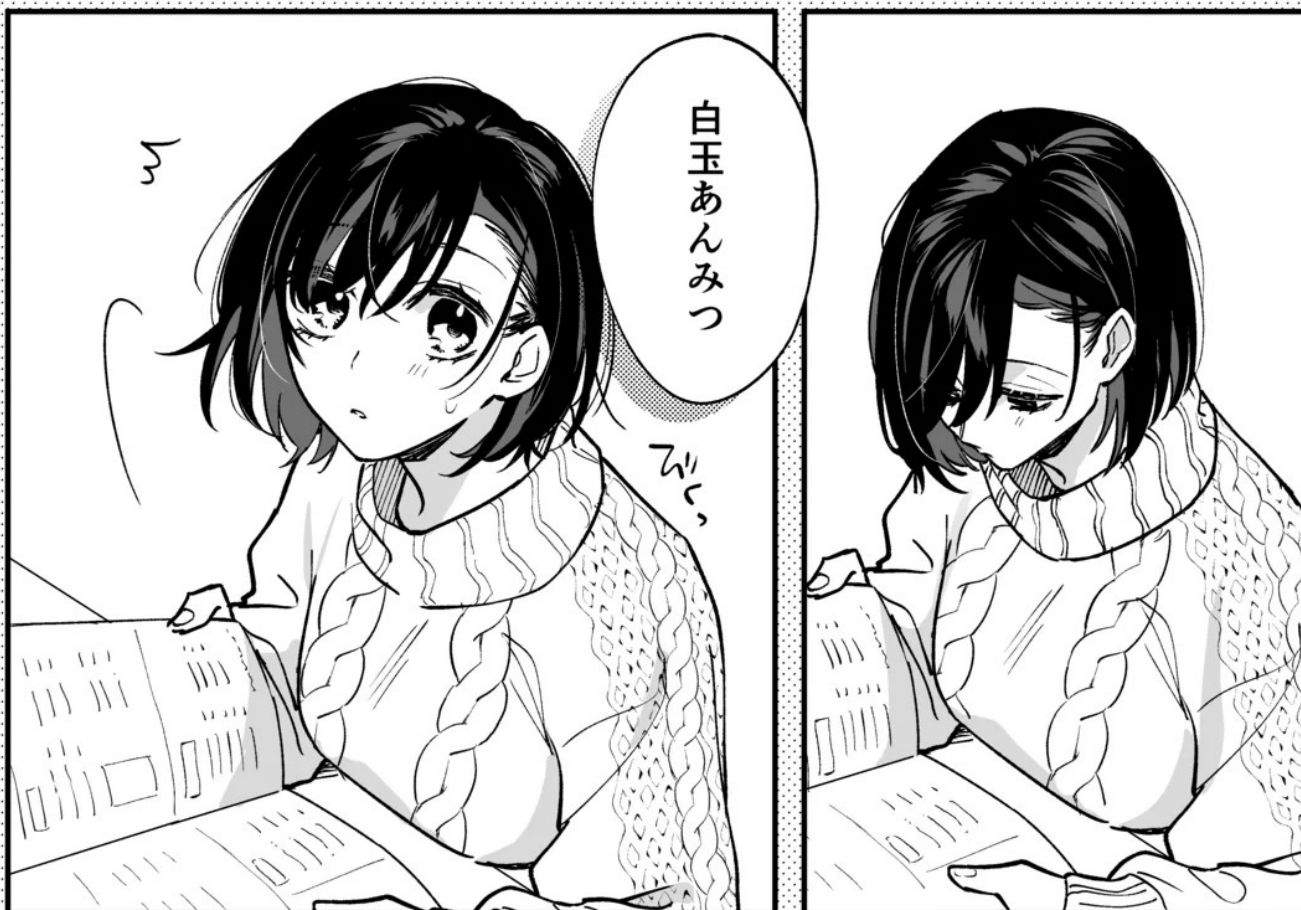
相手にそこまで
興味もなかった



彼女は
2〜3ヶ月ほど
前から僕の店に
通ってくれていて

毎週月曜と
木曜の夕方に
決まって来店しては
甘味を注文していた



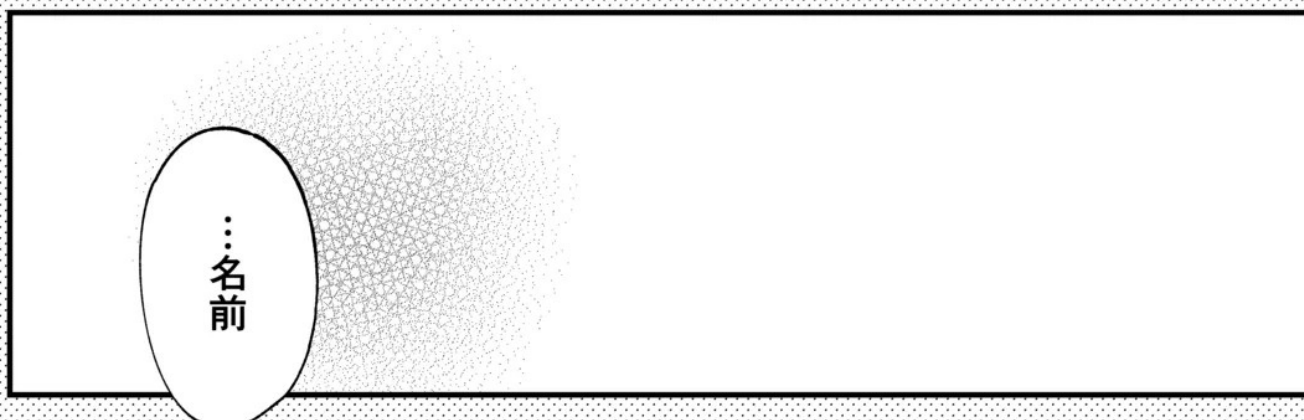
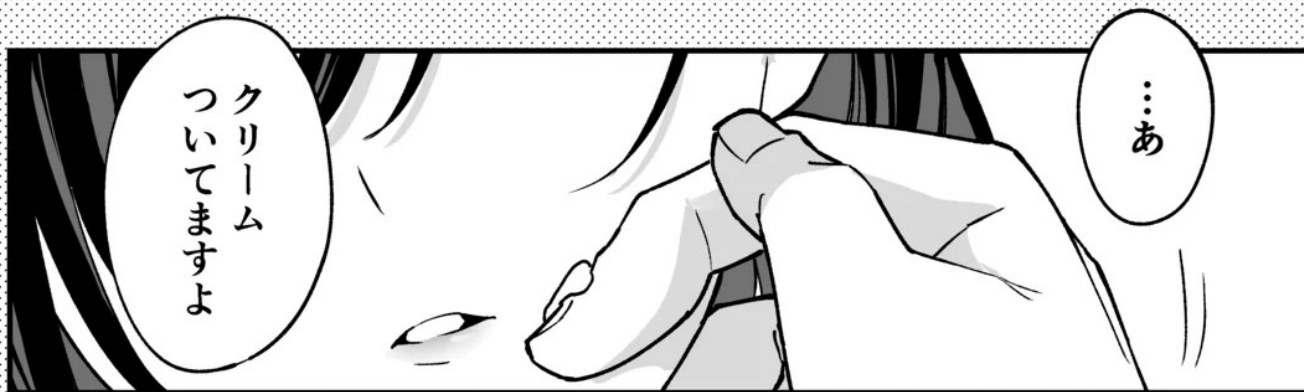












貴方のお名前は？

う、臼井です

下のお名前も
聞いても？

莉緒…です

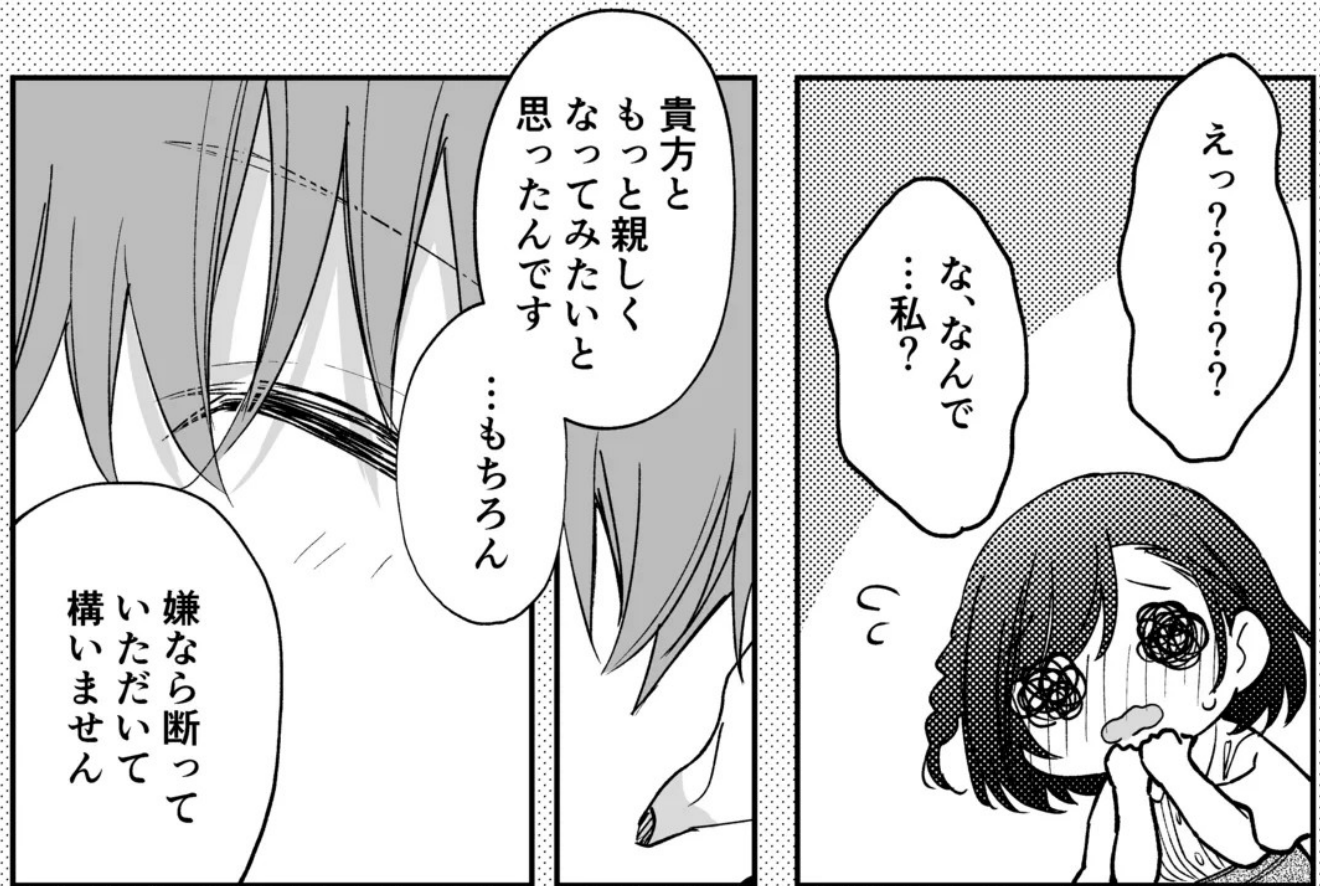
莉緒さん…

僕は中澤清司
と言います

この店の
店長をします

…莉緒さん







は、はい……!



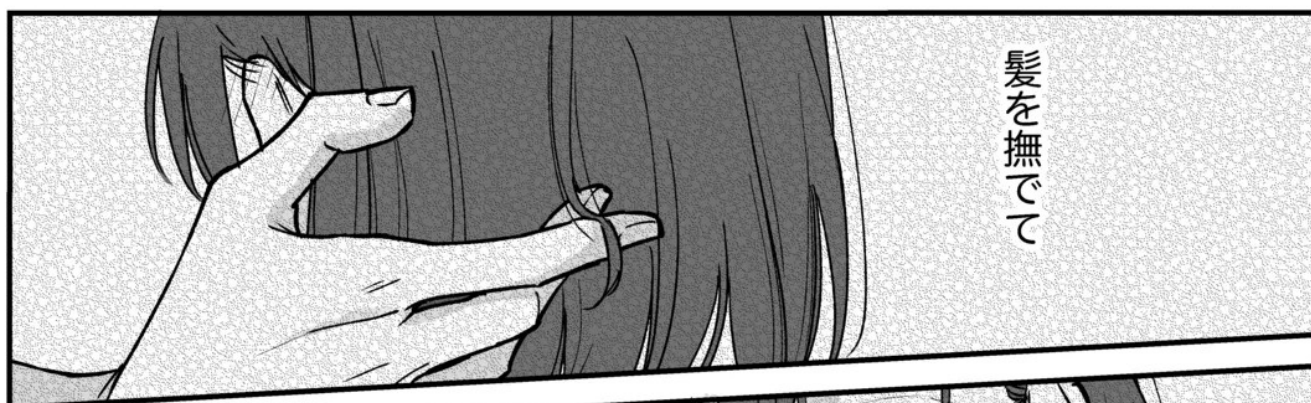
それはOKと受け取って
いいんですね?

可愛いなあ……

それから
というもの

僕の頭の中は
莉緒さんのことで
いっぱいだった





髪を撫でて



頬に触れて



柔らかそうな
唇にキスをして



徐々に肌を
露わにさせて

—なんて

生優しい
抱き方でなく

もっと激しく
乱れさせたい

ああ
でもそんな
ことをしたら

彼女が怖がって
しまう

優しく丁寧で...

…さ
や

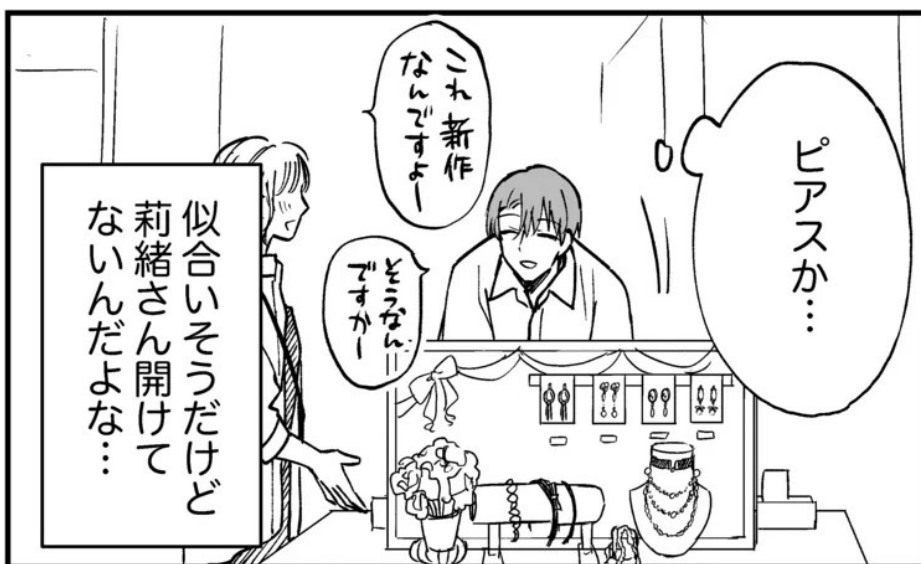
妄想の中で
くさく

好きにしても
許されるだろう

早く

早く





これをプレゼント
したら
開けてくれたり
するだろうか

傷ひとつない
まっさらな体に

僕のために痕を……

すみません
これをプレゼント用に
してください

蒼の雫～another story～

発行者◇花牡丹かん(森の停留所)

発行日◇2022.09.04(COMITIA141)

連絡先◇ohanariri0318@yahoo.co.jp

twitter◇@hana_mori17

pixivID◇28345493



↑マシュマロ
感想頂けたら嬉しいです！

本作品内の絵と文の転載は禁止です。
作品を当サークルに許可なくインターネット上にアップロードした場合、
(著作権法23条)10年以下の懲役もしくは1000万円以下の罰金、
またその両方が同時に科せられます。(著作権法119条第1項)
発見した場合は法的措置をとります。

All rights reserved.

Unauthorized duplication is violation of applicable laws.